

2025年1月に統合した勝呂クリニックの18床については、西宮渡辺心臓脳・血管センターへ8床、西宮渡辺病院へ10床を移管し、両病院の病床数をそれぞれ120床・180床へ増床する計画を進めています。

西宮渡辺病院ではHCU病床を現行の8床から16床へ増床し、診療科の拡充や整形外科・外科領域の充実に伴う手術件数の増加にも対応できる体制を整えます。西宮渡辺心臓脳・血管センターにおいては、SCU6床をICUへ統合し、ICU16床として再編します。これにより、4月からの脳神経外科症例増加や、循環器疾患を併存する他科(整形外科)手術への対応力が向上します。

また、両病院の繁忙期における満床による受け入れ困難(非応需)症例の減少にも寄与する見込みです。

病院経営は年々厳しさを増していますが、当法人は開院60周年を迎える節目にあたり、これからも地域の皆さまに信頼される医療提供体制の構築を目指し、より良い病院づくりに努めてまいります。

■ 開院60周年記念式典

令和7年11月15日、ホテルオークラ神戸にて、西宮渡辺病院開院60周年、西宮渡辺心臓脳・血管センター開院20周年、並びに社会医療法人認可15周年を記念し、式典・講演会ならびに祝賀会を開催いたしました。当日はご来賓の皆さまを含め、約350名の方々にご参集賜り、盛会のうちに執り行うことができました。

式典では特別講演として、免疫抑制療法に代わる次世代の移植医療として注目される「免疫寛容誘導」の研究で世界的に知られる、ハーバード大学外科教授・河合達郎先生をお招きし、『ブタが人類を救う 日本の救世主となるか?』をテーマに大変興味深いご講演を賜りました。河合先生は、米国マサチューセッツ総合病院レゴレッタ臨床移植免疫寛容センターの初代所長も務められ、移植医療の臨床と研究の両面で国際的に先導的役割を果たしておられます。

また、60周年記念事業の講演として、日本赤十字社大阪赤十字病院薬剤部主任 兼 国際医療救援部薬剤師の仲里泰太郎先生より、『災害・紛争地で薬剤師に何ができるのか? 赤十字のミッション』をテーマにご講演いただきました。

さらに、多くのご来賓の方々より温かいご挨拶ならびにご祝電を頂戴いたしました。

記念事業の一環として、参加者の皆さまに募金をお願いしたところ、ご厚意により101,769円のご寄付を賜りました。お預かりした募金は、日本赤十字社へ寄付させていただきましたことをご報告申し上げます。

皆さまの温かいご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。

■ 診療機能強化事業

<勝呂クリニックが当法人グループに加わる 1月>

勝呂クリニックは、西宮の地において1928年3月の開設以来、97年以上にわたり肛門科診療を専門とし、地域医療の中核として重要な役割を果たしてまいりました。

令和7年1月1日より、当法人が同クリニックの事業を承継し、これまで培われてきた医療資源を有効に活用しながら、勝呂クリニックの機能維持と診療の質の一層の向上を図り、継続的な運営を行っております。引き続き、勝呂元彦先生に院長をお願いし、現在の場所および建物にて従来どおり診療を継続しております。

<児童・思春期精神センター開設 1月>

白瀧貞昭先生による児童・思春期精神専門外来を、令和7年1月より西宮渡辺心臓脳・血管センター健康館1階にて開始いたしました。

発達障害(自閉スペクトラム症、ADHD、知的障害、学習障害など)、不登校、心身症をはじめ、お子さまの心の健康に関するご相談にも幅広く対応しております。

<西宮渡辺病院 新院長就任および診療体制強化 4月>

令和7年4月より、猪熊哲朗先生が西宮渡辺病院の新院長に就任いたしました。新院長のもと、

地域の皆さまにより質の高い医療をお届けできるよう、各診療科の体制強化を進めております。泌尿器科では常勤医師2名が新たに着任し、外来診療体制が大幅に充実し、安定した泌尿器科診療を提供できる体制が整いました。

<脳神経外科・脳卒中センター 新体制スタート 4月>

令和7年4月1日より、西宮渡辺心臓脳・血管センター「脳神経外科・脳卒中センター」は、新体制での診療を開始いたしました。このたび、兵庫医科大学 脳神経外科 主任教授 吉村 紳一 先生、大阪公立大学 脳神経外科 名誉教授 大畑 建治 先生のお二方に顧問としてご就任いただくとともに、常勤医師3名を新たに迎え、診療体制を一層強化いたしました。当センターでは、24時間365日、脳神経外科および脳卒中の緊急対応が可能な体制を整えており、地域の皆さまに安心していただける高度専門医療の提供に努めてまいります。

<西宮渡辺心臓脳・血管センター ICU16床へ増床 4月>

西宮渡辺心臓脳・血管センターでは、SCU6床をICUへ統合し、ICU16床として再編いたします。この再編により、4月以降に見込まれる脳神経外科症例の増加や、循環器疾患を併存する他科（整形外科など）手術への対応力が大幅に向上します。

また、両病院における繁忙期の満床による受け入れ困難（非応需）症例の減少にも寄与し、地域の救急・急性期医療をより安定的に提供できる体制が整います。

<西宮渡辺病院 HCU16床へ増床 11月>

西宮渡辺病院では、HCU病床を現行の8床から16床へ増床し、診療科の拡充や整形外科・外科領域の充実に伴う手術件数の増加に対応できる体制を整えました。

この増床により、HCU16床、一般病床132床、回復リハビリテーション病床24床の病床構成となりました。

■ 設備・医療機器等整備事業

<西宮渡辺病院 受変電設備更新工事 7月>

西宮渡辺病院では、医療提供体制の安全性および事業継続性を一層強化することを目的として、令和7年7月に受変電設備の更新工事を実施した。受変電設備は、院内の全電力供給を統括する基幹インフラであり、老朽化に伴う故障リスクの上昇や、近年の医療機器の高性能化に伴う電力需要の増加に対応するため、最新の高効率変圧器を導入した。

■ 医療DX事業

<西宮渡辺心臓脳・血管センター AI電話導入 2月>

昨年11月の西宮渡辺病院での予約専用AI電話の導入に続き、令和7年2月3日より、西宮渡辺心臓脳・血管センターにおいてもAI電話システムの運用を開始いたしました。

本システムは、医療スタッフに代わって電話対応を行うことで、日常的に発生していた「電話が繋がりにくい」状況を改善し、より円滑な医療提供体制を実現することを目的としています。

【AI電話システムの主な機能】

- 24時間365日、AIによる一次対応
病院の電話業務に特化したAIが、医療スタッフに代わり、24時間365日いつでも電話の一次対応を行います。
- 電話内容のテキスト化・音声化および担当部署への振り分け
受電内容を自動でテキスト化・音声化し、内容に応じて適切な部署へ振り分けます。
- 医療スタッフによるコールバックまたはSMSでのご連絡
AIが受けた内容と電子カルテ情報を確認したうえで、医療スタッフが折り返しのご連絡、またはSMSでのご案内を行います。
これらの仕組みにより、受電率の大幅な改善に加え、AIが事前に内容を把握したうえで折り返しを行うため、総通話時間の短縮にもつながっております。

＜西宮渡辺病院、西宮渡辺心臓脳・血管センター 自動精算機の導入 6月＞

西宮渡辺病院・西宮渡辺心臓脳・血管センターでは、会計時にご不便をおかけしておりましたが、2026年6月より自動精算機（ALMEX社 TH-X）を導入いたしました。

これにより、VISA・Mastercardでのお支払いが可能となりました。さらに、2026年9月からはJCB・アメックス・ダイナース・銀聯（UnionPay）にも対応可能となりました。

今回導入した新しい自動精算機は、従来機の利点を活かしつつ、患者様からいただいたご意見を反映し、より簡単な操作で、スムーズかつ快適にお支払いが完了できるよう改良されたモデルです。

■ 地域連携・広報活動事業

＜第129回 循環器診療地域連携フォーラム 開催 10月＞

10月16日、「第129回 循環器診療セミナー in 西宮」を、西宮市医師会内科医会ならびに一般社団法人循環器フォーラム in 西宮との共催により、西宮渡辺病院 新棟5階 大会議室にて開催いたしました。

特別講演Ⅰでは、大阪医科薬科大学 循環器内科 教授 森田 英晃 先生より『地域とともに診る循環器疾患 ～持続可能な紹介体制の構築を目指して～』をテーマにご講演いただきました。続く特別講演Ⅱでは、神戸大学医学部附属病院 副病院長 兼 循環器内科主任教授 大竹 寛雅 先生より『神戸大学循環器内科の新たな歩み ～虚血性心疾患患者に対する多面的アプローチ～』についてご講演いただきました。

当日は55名の皆さまにご参加いただき、活発な意見交換も行われ、盛況のうちに本セミナーを開催することができました。ご参加いただきました皆さまに心より御礼申し上げます。

（藤原 新吾）



法人本部 感染対策部

感染対策部長 竹中 弘子

■ 活動内容

法人本部感染対策部は、法人全施設の感染に関する情報管理や対策指導業務を担っています。患者様、入居者様、職員を感染から守るため、法人全施設を統括管理することで、収集された情報を有効に活用し、一貫性のある感染対策を遅延なく発動するよう努めています。

2025年の感染症は、依然としてCOVID-19の周期的な流行波を受けつつ、後半には過去10年間で最速期のインフルエンザ感染の流行があり、年末からは法人では初めてのCOVID-19とインフルエンザの同時流行を体験しました。

その様な中、施設内においては、COVID-19の影響により途絶えていた感染対策教育の再構築を目指し、様々な研修の再開と見直しを行いました。

まず、法人内3病院においては感染基礎研修を再開し、特に院内感染委員のメンバーを対象に基礎研修Ⅰ・Ⅱを実施しました。また、西宮渡辺脳卒中・リハビリテーション病院の全体研修では、全職員を対象に手指衛生の実技訓練とPPE(個人防護具)の着脱訓練を行い、視覚的体験的に学習できる参加型研修を開催することができました。

また、昨年7月に導入された電子カルテ感染管理システムにより、収集した感染関連情報を整理・分析し、各病院のデバイス関連感染の発生状況や関連因子についてグラフ化した結果を半期ごとに管理委員会でフィードバックを行いました。

また、地域活動としても、西宮市の感染対策向上加算Ⅰ全施設と西宮市医師会が主催者となり年間4回開催している地域連携合同カンファレンスを更に発展させ、これまでWEB形式で実施していた感染対策訓練を、今年度は初めて対面式で開催しました。西宮渡辺病院がオーガナイザーを務めた第2回訓練は総勢180名の参加者となり、感染症専門医である佐々木俊治先生のご講演も含め大変有意義な情報と知識を分かち

合い、特に診療所の先生方において高評価をいただき終了することができました。

西宮渡辺病院 / 西宮渡辺心臓脳・血管センター

- ・ 第一種協定指定医療機関
- ・ 感染対策向上加算Ⅰ
- ・ 指導強化加算

西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院

- ・ 第一種協定指定医療機関
- ・ 感染対策向上加算Ⅱ
- ・ 連携強化加算
- ・ サーベイランス強化加算

西宮渡辺心臓脳・血管センター 広田クリニック / 東灘クリニック

- ・ 第二種協定指定医療機関
- ・ 外来感染対策向上加算
- ・ サーベイランス強化加算

ハートケア西宮わたなべ / グループホームてまりの家 / グループホーム西宮わたなべ / シルトピア西宮

- ・ 高齢者施設等感染対策向上加算Ⅰ

■ 来年度目標

- ・ 流行感染症の院内発生予防と、クラスターの早期制圧
- ・ 感染地域連携活動の継続と拡充
- ・ 感染基礎研修の展開と研究活動への取り組み
- ・ 地域施設の感染対策支援

(竹中 弘子)

法人本部 手術部

統括部長 伊藤 健二、 統括看護部門長 濱崎 弘子

■ 活動内容・今後の目標

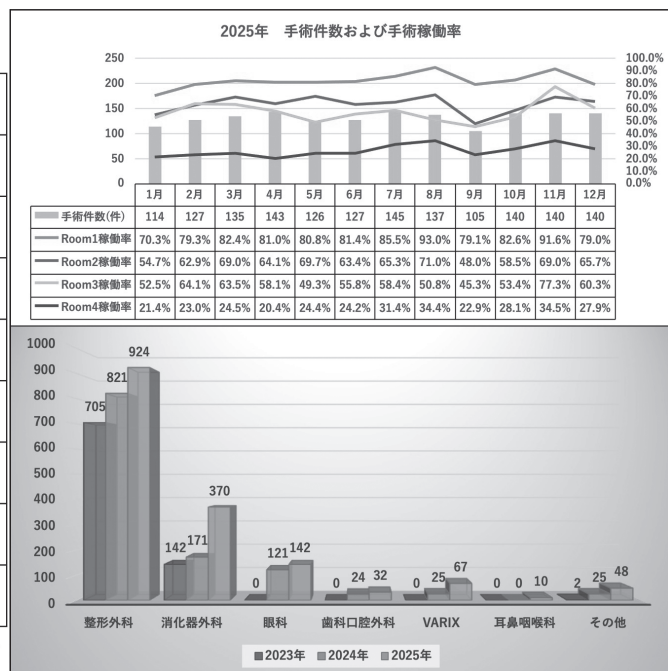
手術部は2023年発足され3年が経過しました。新たに手術部統括看護部門長として濱崎を任命し更に連携強化に努めました。本院(西宮渡辺病院)は過去最高件数、センター(西宮渡辺心臓脳・血管センター)は昨年より緊急件数増加となり大変多忙な一年ではありましたが、大きなトラブルなく充実した一年となりました。今後も連携強化を図り、より多くの手術を安全に施行していくよう努めて参ります。

(伊藤 健二)

【2025年 本院手術室稼働状況】

2023年		
総手術件数	予定手術件数	緊急手術件数
849	701	148
2024年		
総手術件数	予定手術件数	緊急手術件数
1187	879	308
2025年		
総手術件数	予定手術件数	緊急手術件数
1579	1477	102

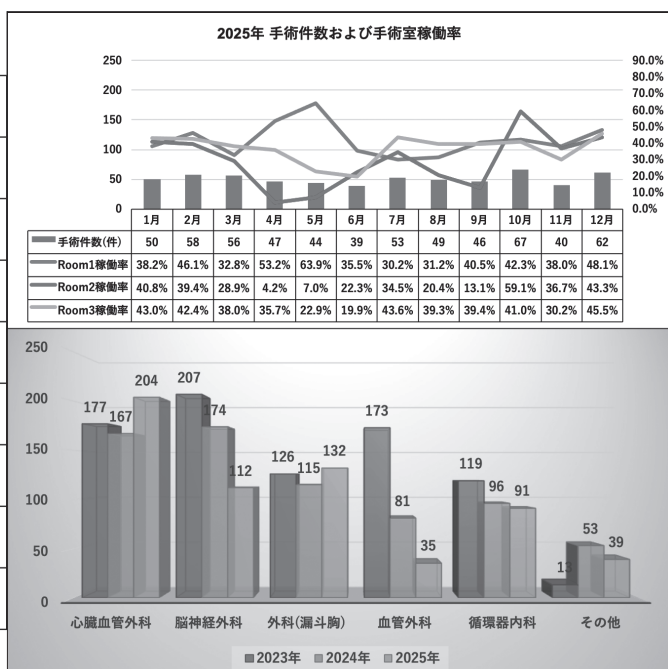
* 緊急手術件数には準緊急含む



【2025年 センター手術室稼働状況】

2023年		
総手術件数	予定手術件数	緊急手術件数
815	533	282
2024年		
総手術件数	予定手術件数	緊急手術件数
686	531	155
2025年		
総手術件数	予定手術件数	緊急手術件数
611	351	260

* 緊急手術件数には準緊急含む



■ 活動内容

法人全体の臨床工学科スタッフは、両施設合わせ28名(西宮渡辺病院11名、西宮渡辺心臓脳・血管センター17名)でスタートし、多岐に渡り業務を遂行しました。センターの方は4名の退職者がありましたが、残ったスタッフにて業務の質を下げることなく遂行できたと考えております。

西宮渡辺病院での昨年同様の業務を行いました。昨年導入したスコープオペレータ業務も順調に件数が増加しており、医師の働き方改革に貢献できたと考えております。また昨年導入した術中神経モニタリング装置を用いて、脊椎脊髄手術時の運動誘発電位をモニタリングにより安全性向上ができたと考えております。内視鏡業務は猪熊院長着任後より大幅な件数増加となりました。件数増加に対して鎮静剤の工夫を行い業務負担の少ない高い稼働率を維持することができました。機器管理業務は年間計画を立て、毎日使用するME機器にトラブルがないよう計画通りに点検を行いました。2025年11月に1名採用し最終人数は1名増の12名となりました。

スタッフの退職に伴い夜勤業務人数変更を行い、業務を遂行しました。2026年1月に新たに1名を迎え最終人数は14名となりました。西宮渡辺心臓脳・血管センターでの臨床支援業務は昨年同様に循環器業務、不整脈業務、心臓血管外科業務、脳神経外科業務、手術室業務、集中治療業務など全診療科で臨床支援業務を行いました。新規ME機器(日本光電社製・NKV-330)の導入を行いました。NKV-330の導入により目まぐるしく変化する医療情勢に対し安全面に配慮しながらコスト削減できたと考えております。また本院同様に機器管理業務を行いました。

また両施設にて森ノ宮医療大学臨床実習を2名受け入れました。今後も、両施設とも臨床工学技士の役割を理解し医師の指示のもと看護師、他のコ・メディカルスタッフと連携し安全・安心な医療技術提供に努めて参ります。

■ スタッフ取得資格

- ・体外循環技術認定士・集中治療専門臨床工学技士
- ・CDR(ペースメーカー/ICD関連情報提供者)認定・3学会合同呼吸療法認定士
- ・介護福祉士・医療ガス安全管理者・不整脈専門臨床工学技士
- ・透析技術認定士・第2種ME技術認定士
- ・消化器内視鏡技師・心血管インターベンション技師・心電図検定1級
- ・医療安全管理者研修修了
- ・臨床工学技士臨床実習指導者研修修了
- ・全スタッフ告示研修履修修了

■ 来年の目標

臨床工学技士は現在の医療に不可欠な医療機器のスペシャリストです。今後益々増大する医療機器の安全確保と有効性維持の担い手としてチーム医療に貢献しています。

良質かつ適切な地域医療の維持・確保、医療安全のさらなる向上を目指すとともに、法人の発展に貢献できるよう努めて参ります。

(伊藤 健二)

■ はじめに

AIの進歩は、生成AIの登場(2022年頃～)により劇的に加速し、自然言語処理・画像認識の精度向上に加え、文字・画像・音声を統合的に扱うマルチモーダルAIが発展、自律的にタスクをこなすエージェントAIへと進化し、ビジネスや医療、日常生活のあらゆる分野で活用が進んでいます。

その中で、医療分野では、画像診断支援(病変の早期発見・高精度化)、診断・治療支援(ゲノム医療、個別化処方)、業務効率化(電子カルテ入力補助、事務作業自動化)、創薬開発の加速、遠隔医療・介護支援など多岐にわたり、医師の負担軽減と医療の質向上、地域格差是正に貢献しています。

特に画像診断は最も活用が進み、医師の見落とし防止や負担軽減に役立ち、AIは「第2の目」や「第2の脳」として医療の質と安全性を高める存在となっています。

■ 活動内容

2025年、タスクシフト／シェアにおける「造影剤投与のための静脈路確保」について、人材育成センターの指導と看護部の全面協力のもと、西宮渡辺心臓脳・血管センターから教育・訓練を開始し、次いで西宮渡辺病院へと静脈路確保にむけて進めてきました。

また、学生実習を初めて受入れ、5月7日から7月25日の約3ヶ月間、学生に対して診療放射線技師としての病院業務と、各放射線技術に対する講義をスタッフ各々が行うことで、スタッフのスキル向上と人材育成・確保を行うことができました。

学術活動において、日本放射線技術学会秋季学術大会、日本放射線技術学会近畿学術大会で研究演題が受理され、発表を行うことができました。

特に全国大会・近畿支部における研究発表、各種講演や勉強会における講演で講師を務め、当法人を全国的に広報することができました。

■ 来年の目標

上記に記すAIの著しい進歩の中で、特に放射線領域はデジタルの環境に置かれており、よりAI技術を取り入れやすい環境と考えます。

将来医療における診療放射線技師の役割がどう変化していくのか。今後、我々診療放射線技師が将来的にどう職域を確保していくのか？

そのことを具体的に想像しながら、来年、いや近い将来にむけて目標を掲げる必要があると感じます。

タスクシフト・シェアにおける我々の業務拡大として、造影検査における末梢静脈路確保があり2025年より進めてきましたが、当法人内では、その業務を放射線科にシフトさせていただくほか、より業務拡大を目指したいと思います。

前年、初の学生実習受入れを行いました。受入れ施設をさらに拡大させ、よりスタッフのスキル向上と人材確保にむけて進めていきたいと思っています。

2025年全国大会(日本放射線技術学会秋季学術大会)で研究発表を行いました。その勢いを持続させ、益々その機会を得たいと思いますし、その他講演やシンポジウムなどの講師派遣を増やし、より放射線科を活性化させたいと思います。

センターにおいて2カテ室の装置更新が決まり、ARTIS Icono D-Spin(シーメンス社)が導入されます。

この装置は現在、脳血管内治療に特化した血管撮影装置として最上位機種であり、その装置が持つ最高峰の技術が発揮できるよう、スタッフ強化をすすめたいと思います。

上記、我々診療放射線技師スタッフのスキル向上を目指し、社会医療法人渡邊高記念会放射線科として、益々発展させていきたいと思っています。

(岡山 貴宣)

法人本部 心臓リハビリテーション事業部

法人本部 心臓リハビリテーション統括部長 川内 麻里子

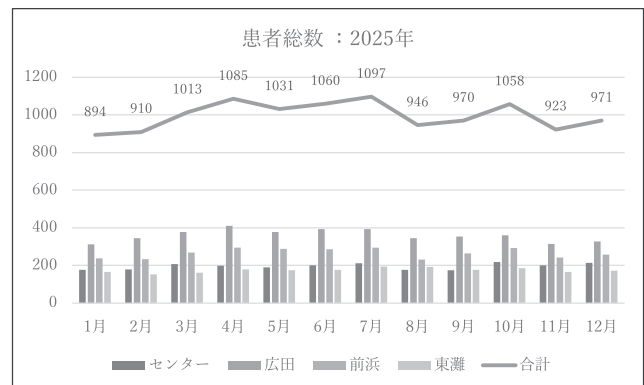
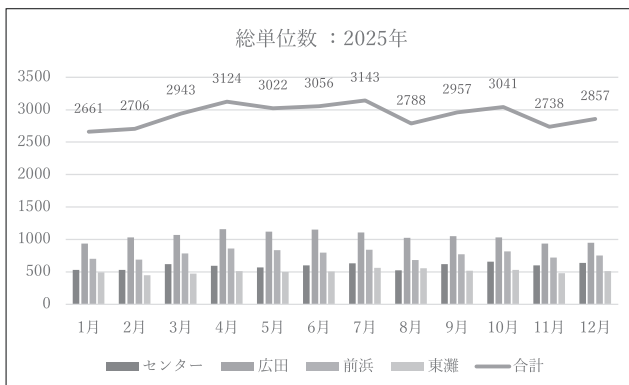
はじめに

心血管疾患患者が、急性期から回復期・慢性期・維持期と継続して心臓リハビリテーション(心リハ)を行うことで、身体的・心理的・社会的・職業的状态を改善し、病期の進行を抑制し、再発や再入院を減少させ、QOLや予後を改善することは、エビデンスとして多く知られるようになってきました。

当法人は、西宮渡辺心臓脳・血管センターを含め、西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院・広田クリニック・東灘クリニックの4拠点で外来心リハを実施しており、心臓リハビリテーション事業部としては、より多くの患者様に外来心リハを受けて頂けるよう、近隣基幹病院からの心リハ依頼にも応じ、受け入れ態勢の整備、多職種連携の強化に取り組んできました。

また、多職種が連携・協働し、運動療法や疾病管理教育など包括的プログラムを提供することで、症状の増悪や再入院を回避し、QOL改善に取り組み、2025年は前年にも増し、より多くの患者様に外来心リハを利用していただくことができました。

2025年の活動実績



主な心リハ依頼・連携病院

兵庫医科大学病院 神戸市立医療センター中央市民病院 大阪大学医学部附属病院
県立西宮病院 医療法人回生会宝塚病院

今後の目標

心リハの目的である『心血管疾患患者の再発予防・再入院予防・QOL改善』を果たすべく、心臓リハビリテーションという治療をより多くの患者様に受けていただけるよう体制をさらにアップデートし、個々に応じた最善の心リハが提供できるよう努力していきたいと考えます。

(川内 麻里子)

■ 2025年 今年の総括と今後の目標

2025年は、西宮渡辺病院開院60周年、西宮渡辺心臓脳・血管センター開院20周年を迎えました。栄養科も給食部門を委託から直営に戻して、西宮渡辺心臓脳・血管センターが7年目(2018年11月から直営)、西宮渡辺病院が5年目(2020年5月から直営)となりました。病院食は単なる食事ではなく、治療を支える重要な医療の一部です。病院給食を直営で運営することは、患者さん一人ひとりの病態や栄養状態に即したきめ細かい食事提供が可能であり、病状や治療方針の変化に迅速かつ柔軟に対応することができる体制の基盤となります。医療の質と安全を守り、かつ、おいしい食事を患者さんに提供するという使命のもと、栄養科スタッフ一同取り組んできました。おかげさまで、病院食がおいしいといった声を多くの患者さんからいただいております、嬉しい限りです。

病院給食業界全体が抱えている大きな課題として、物価高騰による給食のコスト上昇、人手不足が挙げられています。当法人でも調理師・調理員の人材確保が難しくなっているため、将来を見据えて、西宮渡辺病院と西宮渡辺心臓脳・血管センターとで協力し、セントラルキッチン方式を試験導入しました。「病院給食を直営で運営」を将来も持続可能とするために、よりよい方策を模索していきたいと考えています。

物価高騰が続く影響への対応として、病院給食の質を確保する観点から、入院時の食費基準額の引き上げが今年も行われました。入院時の食費基準再引き上げに伴う患者負担額増も踏まえた上で、来年以降の当院での病院給食の設定価格を見直し、質を落とさず、これまで以上に患者さんに喜ばれる安心安全の食事提供に務め、より質の高い医療の提供に貢献していきたいと考えています。物価高騰や人材確保など厳しい環境が続く中においても、創意工夫を重ね、栄養管理の質を維持・向上させることが重要です。病院における栄養管理の重要性を再認識し、法人栄養科全体で持続可能な栄養管理体制の構築に努めていくとともに、栄養科のさらなる発展に向けて、管理栄養士のスキルアップやキャリアアップにも取り組んでいきます。

(高木 洋子)



■ 令和6年度 栄養部部門取り組みと診療報酬への貢献

社会医療法人渡邊高記念会は、総合病院、心臓・脳血管疾患を専門とする急性期病院、回復期リハビリテーション病院、介護老人保健施設を併せ持ち、急性期から回復期、在宅復帰・生活期まで切れ目のない医療・介護を提供しています。栄養部門はこの医療・介護の連続性を支える専門職として、各施設の機能に応じた栄養管理・栄養介入を行い、診療の質の向上と診療報酬の適切な算定の両面に寄与してきました。施設間のオンラインカンファレンスを月1回開催し、栄養情報の共有や急性期から回復期、生活期まで一貫した栄養管理の考え方を共有しています。

1. 西宮渡辺病院

入院時スクリーニングの徹底により低栄養リスク患者を早期に抽出し、多職種と連携した栄養管理計画の立案・実践を行っています。経口摂取困難例への経腸・静脈栄養導入、摂食嚥下機能低下患者への対応など、個別性の高い栄養介入を通じ、治療成績の安定化、合併症予防、在院日数の適正化に寄与しました。これらは急性期医療における栄養管理体制の充実として、診療報酬算定の基盤を支えています。

2. 西宮渡辺心臓脳・血管センター（専門急性期）

心不全患者に対する塩分・水分管理、脳血管障害後の嚥下機能低下への対応など、疾患特性に即した栄養管理を実践しています。急性期治療および早期リハビリ開始を見据えた栄養介入により、治療効果の最大化と再発予防、機能回復の基盤形成に寄与し、専門病院としての診療体制の質向上に貢献しております。

3. 西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院

入院時および定期的な栄養評価を行い、リハビリ負荷量に応じたエネルギー・たんぱく質の調整、低栄養・サルコペニアリスク患者への重点介入を実施しました。多職種連携のもと、栄養状態の改善とADL向上の相乗効果を意識した介入を継続し、経口摂取再獲得支援や食事環境の調整を通じて、回復期医療の質向上と安定した算定体制に寄与しております。

4. 介護老人保健施設(生活期)

入所時の栄養アセスメント、低栄養・脱水予防、嚥下機能に配慮した食事提供、利用者・家族への栄養指導を実施しました。多職種協働による栄養ケア・マネジメントを通じ、体重・摂取量の安定、褥瘡・感染症予防に寄与し、在宅復帰支援および生活機能維持の質向上に貢献しました。その成果は学会発表につながりました。

5. 施設間の取り組み

栄養部門は、単に「食事を提供する部門」ではなく、医療・介護の質を底支えし、診療報酬・介護報酬の算定要件を現場で実装する実務の中核を担っています。今後も各施設の特性に応じた専門性を高め、栄養管理の質向上に取り組んでまいります。

(鞍田 三貴)

法人本部 リクルートセンター

社会医療法人渡邊高記念会法人本部 リクルートセンター センター長 草刈 みかや

■ 活動内容

法人本部リクルートセンターは新規入職職員の採用活動を中心に、技能実習生・障害者実習生受け入れに係る書類作成・環境整備・生活環境補助・在留関係補助業務、退職者面談・退職手続き案内、治験関連事務手続き、倫理委員会招集・議事録作成、退職金計算・支給手続き、産休・育休・時短者給付金事務手続き全般、看護処遇改善評価料算定・報告、ベースアップ評価料算定・報告、就業規則届出、女性雇用機会均等法開示書類作成・兵庫労働局へ届出、障害者雇用状況を労働基準監督署へ算定・報告、休職者面談・連絡業務、医療人材開発センター事務、各種表彰書類作成等、労務関係他全般を行っております。

■ 職員数(令和7年12月現在、非常勤含む、医師は常勤のみ)

西宮渡辺病院	508名
西宮渡辺心臓脳・血管センター	411名
西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院	83名
介護老人保健施設ハートケア西宮わたなべ	39名
訪問看護ステーション西宮わたなべ	12名
西宮渡辺心臓脳・血管センター広田クリニック	9名
西宮渡辺心臓脳・血管センター東灘クリニック	5名
西宮わたなべグループホームてまりの家	15名
サービス付高齢者向け住宅ひだまり	2名
居宅介護支援センター西宮わたなべ	2名
定期巡回・随時対応型訪問介護看護わたなべ	13名
すくすく保育わたなべ	7名
グループホーム西宮わたなべ	27名
健康塾	2名
西宮市中央在宅療養相談支援センター	1名
西宮渡辺ヘルパーステーション	1名
居宅介護支援センターはまかぜ	2名
シルバーピア西宮	5名
合計	1144名

■ 実習生受け入れスケジュール

技能実習生	R7.2.12-3年間
障害者実習	希望者があれば環境整備、事務、調理補助にて5日間実習受け入れ R7年度は3名受け入れ、内2名は雇用となった。

■ 来年の目標

- ・法人の展開する新事業に向けて、配置必要な職種・職員の把握、確保の推進強化
- ・介護職、その他必要な職種職員の採用強化
- ・作業効率の向上・正確性をアップするための更なる成長

(草刈 みかや)

法人本部 経理課

主任 高尾 日菜

■ はじめに

法人本部 経理課は令和7年12月末現在6名で構成されており法人内全施設の財務を担当しております。各施設の財務をそれぞれの担当に振り分け、より専門的に業務が行えるように取り組んでいます。

■ 活動内容

具体的には、予算・決算及び財務諸表の作成、資金管理及び運用・出納、物件工事等の契約、届出や統計資料の作成等を行っています。特に収入・支出につきましては、他部署との連携を密にしながら根拠を明確にして適切な処理に努めています。

また、今年度からクレジットカード決済の運用を開始したことに伴い、関連する財務管理体制の整備を進め、適切な運用に努めました。

■ 来年の目標

今後も新しい導入事項について業務の効率化を進め、さまざまな変化に柔軟に対応できるよう、それぞれが担当業務に責任を持ち、スキルを磨きながら業務に取り組んでいきたいと考えています。

(高尾 日菜)



法人本部 総務課・人事課

事務長補佐 畝本 真弓

■ 今年の振り返り

現在、西宮渡辺病院の総務課2名、人事課4名で構成されており、西宮渡辺病院および法人内施設の総務・人事課業務を担当しています。

今年は西宮渡辺病院開院60周年、西宮渡辺心臓脳・血管センター20周年、社会医療法人認可15周年という節目の年でありました。総務課・人事課でも事務局を担当する事になり、案内状の作成や送付、60周年記念誌作成、記念品の選定、プログラム作成、座席表作成など、法人本部と調整を繰り返し行い、式典・祝賀会までの準備を行いました。式典、祝賀会の当日は多くの来賓、祝辞をいただき盛大に開催することができました。今回60周年記念式典・祝賀会の事務局は多くの経験をさせていただき、今後の院内行事にも生かせると思います。

■ 活動内容

業務内容

◆総務課

- ・新入職員案内
- ・職員健康診断、インフルエンザ等の予防接種
- ・勤怠確認
- ・各種届出書類や統計資料の作成
- ・院内行事の運営
- ・掲示物及び回覧の管理
- ・郵便物の発送や仕分け

など

◆人事課

- ・入退職書類管理
- ・各種提出書類、申請書類処理
- ・職員労災管理
- ・雇用契約管理
- ・休暇管理
- ・研修・実習管理

など

令和7年の主な年間行事

1月	新年初顔合わせ
2月	防火・防災訓練
3月	理事会、職員B型肝炎予防接種
4月	新入職員オリエンテーション・入職式
5月	爽高会
6月	理事会、職員健康診断・ストレスチェック
8月	防火・防災訓練
11月	開院式、60周年記念式典、職員インフルエンザ予防接種、保健所立ち入り検査
12月	法人忘年会、理事会、職員夜勤者・電離放射線対象者健康診断

■ 来年の目標

日々変動する社会情勢により、状況に応じた業務変更も考えられます。状況に応じた対応を念頭におき、業務の見直しや業務改善をより一層強化しスムーズな業務を目指します。

(畝本 真弓)

法人本部 IT

主任 清水 大輝、 白神 佳代、 水谷 祐貴、 立花 優

■ 活動内容

今年度は4月に2名の入職者を迎え、より機動力を持って職務を遂行することができました。成果としては各拠点へのマイナ保険証用リーダーの拡充と自動精算機およびクレジットカード決済の運用開始、西宮渡辺病院・西宮渡辺心臓脳・血管センターへの褥瘡ハイリスクケア加算システムの導入、介護部門の電子カルテとオンライン請求環境確立などです。また、度重なる本院・センタの病棟改装工事に伴っての機材の移動や設置にも、「平成生まれの機動力」を大いに発揮し、職務を完遂することができました

またIT部門としては、電子カルテシステム・PACS (医療画像診断システム)・各部門システム・院内ネットワーク・サーバ機器・クライアント機器など法人内での幅広い範囲で運用・保守・管理を主要業務として行っております。

日々、医療環境が変化していく中で柔軟にシステムを適応させていくことが重要となっています。地域中核病院を標的としたウイルスやランサムウェアの猛威もあり、より注意深く医療環境の変化、システム環境の変化に柔軟に適応していくべき事となっています。

■ 来年の目標

主任を中心に、チームとしての形が整ってきましたので、従来の「現状維持」のフェーズから脱却し、「成長・発展」へステップアップが可能になったと思います。DX時代を迎えるにあたり、ますますIT環境の充実が必要になります。ネットワーク環境の整理も含め、しっかり対応していきたいと思います。

手始めに、動作の安定しないPCやNASのハードウェア更新を順次行い、業務環境の改善を図っていきたいと考えております。

また、依然として現場側での運用や管理する側の保守・管理も見直していくべき事柄が多くあるかと思えます。従来方法に固執せず、新しい目線を取り入れて、運用・保守体制の確立を目指したいと思えます。

日々様々な問題点が出てきますが、一つ一つクリアしていく事が大切であり、システム要因での医療環境への負荷にならないよう、運用・保守・管理業務を整えていきたいと思えます。

(白神 佳代)



広報企画室は、法人内の数多くの施設、診療科、部署などの広報関係に係る業務を行っており、主な業務内容は以下の通りです。

■ 業務内容

- ①ホームページ作成・更新作業、SEO対策およびMEO対策も
- ②広報誌「わたなベニユース」：2ヶ月に1回の作成と近隣医療機関、友の会の会員への送付
- ③各種健康講座(すいすい健康講座、センター市民健康講座、健康ミニ講座)開催
- ④フォーラム(講演会)開催
- ⑤病院各種パンフレット類の作製・監修
- ⑥年報の作成
- ⑦開催行事のポスター作成、掲示、写真撮影、編集、管理
- ⑧近隣開業医の先生方への医師と同行での挨拶訪問
- ⑨消防救急課・隊への医師との同行訪問
- ⑩WEB検査導入システムの推進(地域連携室と協働して)
- ⑪近隣施設の開放型病診連携システムへ登録推進
- ⑫リクルート関連：ハローワークでの求人票作成と更新、各種大学説明会、挨拶訪問の手伝い
- ⑬企業、マスコミなどからの広告の依頼への対応
- ⑭広告デザインの作成
- ⑮介護施設等の協力医療機関としての窓口業務・カンファレンス等の運営
- ⑯健康診断業務に関する補助

■ 本年の振り返り

法人内には数多くの施設がありますが、ホームページ更新は、優先順位をつけながら迅速に行えたと思います。アクセス状況の解析に関しては、自身でGoogle解析を行い、SEO対策およびMEO対策も強化していきます。

広報誌「わたなベニユース」は2カ月に1回発行、その時期に合わせて法人内での伝えたい内容を盛り込み掲載。本年は配布対象となる医療機関の増加、患者友の会の会員の増加などで、より幅広く法人の活動を広報誌を通して伝えられました。また、作成に関してはデザイン会社を通さず、全て法人内でイラストレーターにて作成することで、経費削減にもつながられました。完成時にはLINE配信も行った。

各種健康講座の詳細は、年報の業績集(活動内容一覧)に掲載しており、ここでは省略します。すいすい健康講座：8回、センター市民健康講座：10回、健康ミニ講座：6回と合計：24回の健康講座を開催した。

フォーラムも年報の業績集(活動内容一覧)に掲載しており、今年は2回開催し、聴講された医師の方々にも満足いただける内容であったと感じました。

クリニックや病院等への医師や医療スタッフとの同行、もしくは単独での挨拶および連携目的の訪問は、井上さんが機動力を大幅にアップし、下記のようにかなりの施設において訪問できた。

訪問軒数(のべ件数)

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
令和6年	3	4	7	3	2	4	18	14	14	14	29	11	123
令和7年	5	19	27	8	9	13	17	20	17	17	6	1	159

また、本年は西宮渡辺病院開院60周年、西宮渡辺心臓脳・血管センター開院20周年、社会医療法人 認可25周年であり、11/15の開院記念式典の準備を含め事務局の一部としても機能しました。

■ 来年の目標

- ・ホームページ更新においては、これまで通りに法人内各診療科・各部署からの依頼に対して迅速に行い、ウェブサイト解析状況などもより精度を高めて、今後の更新作業などに当たっていきたいと思います。特にスマホでの閲覧が最近増加していることで、スマホ閲覧での確認を確実に行っていき、より見やすいホームページの構築に努める。
- ・ホームページ上での動画掲載、YouTubeなどへの動画のUPなど、文字と写真だけでは分かりづらい面に対して、動画を通して一般の方や近隣医療機関の方へも伝えられるように強化していきたい。
- ・健康講座は、時節に合わせて、患者様の希望に合わせていけるようなテーマを今後も盛り込んでいきたいと思います。
- ・近隣クリニックとの更なる連携強化：こちらに関しては、広報企画室の井上が特に取り組んでいます。
- ・新任医師との近隣医療機関への挨拶訪問の強化
今年も、より広報面での活発な活動を行っていきたいと思います。

(鳥越 信一)

法人本部 用度課

主任 福島 繁男

■ 活動内容

法人本部総務部門の一角として、10名のスタッフで用度・設備管理に関する多岐に渡る業務を担当しています。

主要業務一覧

大分類	小分類
使用済医療材料申請対応	医事コード確認、保険点数確認、補充
発注業務	在庫補充、非在庫物品の都度発注
購入申請対応	稟議書処理、10万円未満
修理依頼対応(修理伝票)	台帳入力、現場確認、業者との調整
検品	業者からの納品物を検品し倉庫へ振分
検品済み納品書データ入力処理	
医療材料以外の納品書データ入力処理	栄養課、売店
払出	定期払出(本院・センター)、臨時払出
物品カード・シール発行	申請のあった物品カード・シールを作成
シャトル便	センター、脳リハへのシャトル便
医療雑誌	医療雑誌の検品・納品
自販機用マスクの箱詰め作業	本院・センター・リハ病院自販機用
取扱商品管理	管理システムへの新規・中止・変更登録
固定資産登録	高額な物は固定資産の台帳に登録
締め処理	仮締め、請求処理
棚卸・データ登録	倉庫の備品数確認

各種取扱実績件数

	合計	月平均
本院	1586	132.1
センター	1481	123.4

	合計	月平均
本院	788	65.6
センター	668	55.6
リハ病院	248	20.6

	合計	月平均
本院	204	17
センター	115	9.5
リハ病院	13	1.1

その他、10万円未満の物品請求等多数

■ 来年の目標

今年に引き続き事務処理を更に効率化し、エラー率の低減、納品期間の短縮を推進します。
また、業務担当者を多重化し、属人的ではなく組織的な運営に取り組みます。

(福島 繁男)

法人本部 医師招聘部

副主任 大和 彩香

今年度、常勤医師が西宮渡辺病院：14名、西宮渡辺心臓脳・血管センター：10名と多くの医師に入職いただきました。法人全体では、常勤医師数も増加傾向にあり現在では約90名在籍しております。

また連携先医療機関も年々拡大しており、各種書類対応をはじめとした業務の幅も広がってまいりました。業務の整理、効率化を図るとともに、各部署と連携を強化し、医師が円滑に診療に専念できる体制づくりに取り組みます。引継ぎ法人のさらなる発展に努めてまいります。

(大和 彩香)



I 活動報告

1. 各委員会

1) 運営委員会(毎月第3水曜日)

看護師特定行為研修に関する年間計画の企画及び運用など
組織定着化支援事業における検討事項

2) 管理委員会(2回/年)

受講者の成績判定及び運用に関する検討など

3) 入試委員会

看護師特定行為研修の入試に関すること

4) 特定行為に関する委員会

不定期開催(7月・9月・10月)

2. 活動内容

1) 特定行為研修(看護師)

※看護師の特定行為に係る指定研修機関運営事業対象(厚生労働省)

①2025年度の受講者：5名(外部施設5名)現在研修中

受講している特定行為名	1	2	3	4	5
経口気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	●	●			
侵襲的陽圧換気の設定の変更	●	●	●		●
非侵襲的陽圧換気の設定の変更		●	●		●
人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整		●	●		●
人工呼吸器からの離脱	●	●	●		●
気管カニューレの交換				●	●
胃ろうカテーテル若しくは胃ろうボタンの交換				●	●
末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入			●		
褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去				●	●
直接動脈穿刺法による採血	●	●	●		
橈骨動脈ラインの確保	●	●	●		
脱水症状に対する輸液による補正	●	●		●	●
インスリンの投与量の調整				●	●
硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	●				
持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	●				
抗けいれん剤の臨時の投与		●			●
抗精神病薬の臨時の投与					●
抗不安薬の臨時の投与					●

②申請書類の作成：年次報告・修了者報告・変更届・協力施設の申請など

③今後の予定

修了試験：2026年2月16日

修了報告会：2026年3月9日

修了式：2026年3月18日

2) 特定行為看護師会

4月より西宮渡辺病院及び西宮渡辺心臓脳・血管センターの看護部長を委員として迎え再開する。主に手順書の作成基準や電子カルテ運用マニュアルなどを作成した。現在、PICC挿入に関しては手順書に基づいて特定看護師が対応している。また、毎月参加自由の「寺子屋Toku」を開催し、教育的な関わり方などについて一緒に考えている。

3) 病院内の看護師に対して特定行為研修の共通科目の受講機会を提供している

※特定行為研修の組織定着化支援事業対象(厚生労働省)

必須項目 ・ 特定行為研修(共通科目)1区分を年度内に受講を終える看護師が病院内看護師の3%であること

・ 厚生労働省が認可する研修などに特定看護師が受講していること

今年度は6名が共通科目を1区分以上受講しており、研修にも参加している。

4) 他職種の特定期間

(1) 救急救命士

具体的な研修計画に関しては、迅速な対応が必要であるため院内の救急委員会で検討することとなり、今後マニュアルをMC協議会に提出予定である。

(2) 診療放射線技師

静脈路確保については、看護部のマニュアルに基づき演習及び実習をすることになり、修了の管理を医療人材開発センターで実施することとなった。

現在、西宮渡辺心臓脳・血管センターの10名に対して修了証を発行し、活動中である。

II 2026年度の計画

1) 特定行為研修(看護師)2026年4月～2027年3月の運用

受講している特定行為名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
経口気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	●						●				●	
侵襲的陽圧換気の設定の変更		●					●				●	
非侵襲的陽圧換気の設定の変更		●										
人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整		●										
人工呼吸器からの離脱		●					●				●	
気管カニューレの交換			●	●	●	●			●	●		
胃ろうカテーテル若しくは胃ろうボタンの交換			●	●	●	●				●		
中心静脈カテーテルの抜去	●											●
末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	●				●			●				●
褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去		●	●	●	●	●				●		
創傷に対する陰圧閉鎖療法		●		●	●							
直接動脈穿刺法による採血	●	●					●	●			●	●
橈骨動脈ラインの確保	●	●					●	●			●	●
持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整		●						●				
脱水症状に対する輸液による補正		●	●	●	●	●	●	●		●	●	
インスリンの投与量の調整				●								
硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整							●				●	
持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整							●				●	
抗けいれん剤の臨時の投与		●			●							
抗精神病薬の臨時の投与		●			●							
抗不安薬の臨時の投与		●			●							

※看護師の特定期間に係る指定研修機関運営事業対象(厚生労働省)

※特定行為研修助成事業対象(兵庫県)



(平山 亜矢子)

生活販売部

主任 加藤 紘王輝

■ 活動内容

生活販売部は病院売店の管理運営が主な業務です。患者様・職員にとって便利な売店を目指して営業しています。

■ 活動状況

西宮渡辺病院 売店

営業時間 9:00~17:00 定休日 日・祝日
月間平均来客数 1145人/月
・食品・生活用品・医療材料の販売
・松葉杖の貸出

西宮渡辺心臓脳・血管センター 売店

営業時間 9:00~17:00 定休日 日・祝日
月間平均来客数 379人/月
・食品・生活用品・医療材料の販売
・レンタルベッドの貸出

西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院 出張売店

営業時間 毎週木曜日 14:00~15:30
月間平均来客数 6.3人
・食品・飲料(主に菓子類)の販売
・靴・衣類等の日用品の取り寄せ販売

西宮渡辺病院 出張売店

営業時間 毎週木曜日 10:30~11:30
販売車による移動販売
月間平均来客数 7.5人

シルバートピア西宮・グループホーム西宮わたなべ 出張売店

毎月開催 第3火曜日 14:00~16:30開催
月間平均来客数16人
・食品・飲料(主に菓子類)の販売
・靴・衣類等日用品の取り寄せ販売

てまりの家 出張売店

毎月開催 第3木曜日 14:00~15:30開催
月間平均来客数15人
・食品・飲料(主に菓子類)の販売
・靴・衣類等日用品の取り寄せ販売

保育所注文販売

保育所で子供たちに提供する菓子類、ケーキの受注と納品を行う。週一回納品。
月間平均納品数 45個

医療品自動販売機

24時間稼働 マスクなど医療材料を販売
西宮渡辺病院は11月から販売開始。心臓脳・血管センターも順次開始予定。

成績

2025年は本院の売店規模を縮小し自動販売機を新たに設置しました。センターも順次稼働予定です。
2026年も引き続き患者様、職員に便利な売店を目指します。

(加藤 紘王輝)